

採炭から消費地へ

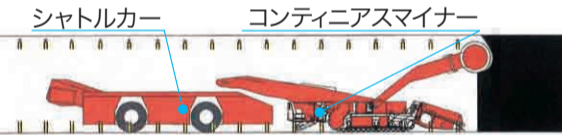
1 「人車」に乗って海底下へ



「人車」と呼ばれるケーブルカーで、石炭を掘る海底下の現場へ向かいます。人車は10両編成で最大240人が乗れます。坑底までの全長1,500メートルを約8分で走ります。

2 坑道を掘り進む

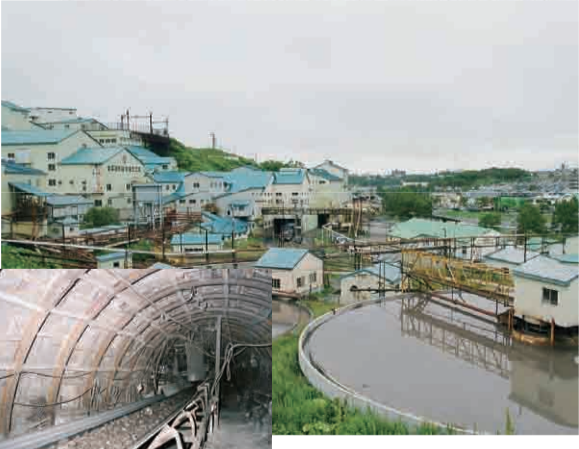
石炭を採掘する場所（切羽）を作るため、まず、石炭層を掘り進むコンティニアスマイナーと呼ばれる機械と、切り崩した石炭等を運ぶシャトルカーがセットになって、空気の通り道や石炭を掘り出すための坑道を作ります。



3 採炭している現場

4枚の刃が付いた直径1.8メートルのドラムカッターが石炭層を削り落とし、一日に約3,000トンの石炭を産出しています。また、切羽はシールド枠という機械が天盤の荷重（地圧）を支え、落盤等を防いでいます。

4 石炭を海底から選炭工場へ

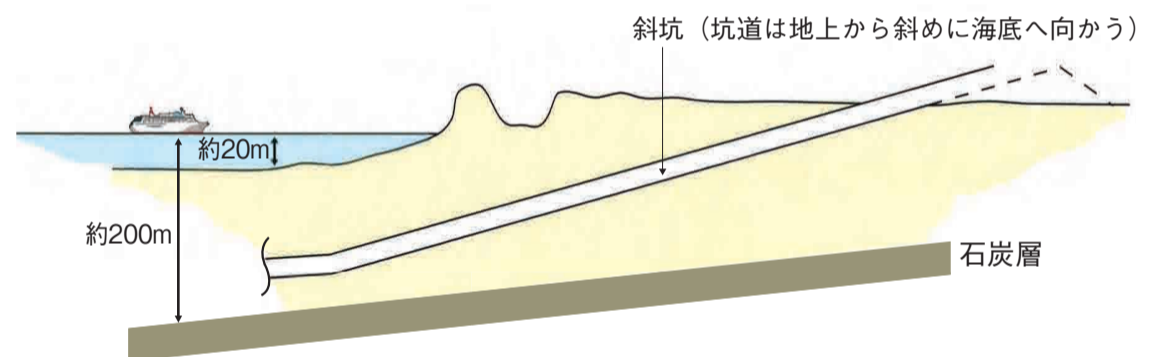


坑内で採掘された石炭はベルトコンベアに乗せられ、地上にある選炭工場へと運ばれます。選炭工場では、毎時900トンの選炭能力を持ち、環境面にも十分に配慮した機械で、製品となる石炭とそうでないもの（ズリ）に選別します。

釧路の炭鉱はどこにあるの？



現在、釧路で採掘している石炭は、市内の中心部から海の沖合約10キロメートル以上にわたって、海底深くまであります。現在は海面下約200メートルの所で採掘しています。石炭のある地層は5～6度と緩やかな傾斜で地上から海底下に伸び、現在の鉱区は東西約4.5キロメートル、南北約4キロメートルに広がっています。最大規模のときには、東西約12キロメートル、南北約10キロメートルの広さで、坑道の総延長は約240キロメートルにもなりました。



5 鉄道で釧路港南埠頭へ運ぶ



製品となった石炭は、専用の貨車に積み込まれ、春採湖畔や弁天ヶ浜を通る鉄道で、一日に数度、南埠頭（知人町）にある貯炭場に運ばれます。石炭列車にはファンも多く、臨港線は釧路の隠れた名所にもなっています。

6 それぞれの消費地へ



貯炭場の石炭は、専用船に積み込まれた後、国内各地の火力発電所に運ばれ、発電用の燃料として利用されます。また、一般産業用としても利用されています。

太平洋炭礦「炭鉱展示館」

釧路の炭鉱が歩んできた道のりや、石炭が実際にどのように掘られているのか等を学ぶことができます。特に、模擬坑道では、実際に石炭を採掘している現場にいるような体験ができます。



住所 桜ヶ岡3-1-16
開館時間 午前10時～午後4時
休館日 毎週水曜日、年末年始
入館料 大人300円、中学生以下200円
問合先 青雲台体育館 (☎91-5117)